

旭久保 B 遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵
文化財発掘調査報告書

1998

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

序

富士見村では、これまでは主に県営ほ場整備事業に伴って南西部に位置する横室地区、米野地区、原之郷地区、あるいは南東部に位置する小暮地区、時沢地区などで発掘調査を行ってきました。しかし、近年では民間開発が活発化し、これに伴った発掘調査が増えております。

前橋市と接する原之郷地区には数多くの遺跡がありますが、発掘調査が行われた遺跡の数は多くありません。しかし、先年、民間の店舗開発によって発掘調査を行った旭久保遺跡からは、古墳時代から平安時代にかけての大規模な集落跡や、縄文時代中期の多量の遺物が出土しました。

今回は、やはり民間のアパート建設に伴って、この旭久保遺跡の北端に位置すると思われる地点（旭久保B遺跡）の調査が行われ、古墳時代の住居や、中近世の溝跡が検出されました。調査範囲はごくわずかでしたが、旭久保遺跡全体の様相を解明する上で非常に貴重な成果が得られたと思います。このように、地道な調査の積み重ねが富士見村に留まらず、群馬の、さらには日本の歴史を解明するために必要なことと思います。

最後になりましたが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきました小見保氏ならびに関係者各位、さらに、調査に従事していただきました作業員の皆様に心より謝意を表し、序といたします。

平成10年3月

富士見村教育委員会

教育長 浅井 多津男

例 言

1. 本書は共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県勢多郡富士見村大字原之郷字堀之内958番地に所在する。
遺跡名については、小字名は堀之内であるが、先年調査を行った旭久保遺跡の一部である蓋然性が高いため、旭久保遺跡のB地区という意味で旭久保B遺跡と称している。
3. 調査期間は平成9年8月18日から平成9年8月28日である。整理作業は平成10年3月31日まで行った。
4. 発掘調査及び報告書刊行にかかる経費は、事業者である小見保氏が負担した。
5. 発掘調査は富士見村教育委員会が実施した。調査体制は、教育長 浅井多津男、社会教育課長 品川良治、課長補佐 椛澤幹男、主査 羽鳥政彦（担当）である。
6. 本書の編集・執筆は羽鳥が行った。遺物実測、図版トレース・版組は船津かほるが行った。
7. 発掘調査に係る資料は一括して富士見村教育委員会で保管している。
8. 発掘調査参加者は以下のとおりである。
木村利男 関口照子 船津かほる 本望充子

凡 例

1. 遺構図方位記号は座標北を表している。
2. 挿図縮尺は以下のとおりである。
全体図 1/200 竪穴住居跡 1/60 溝跡 1/80 遺物図版 1/3
3. 第1図は国土地理院発行1:25000地形図「渋川」を用いた。第2図は富士見村役場発行1:2500原形図を1:5000に縮小し用いている。

目 次

序 文	例 言	凡 例	目 次	
I. 調査に至る経緯と調査の経過			1
II. 遺跡の位置と遺跡地の地形			1
III. 周辺の遺跡			2
IV. 土層堆積			3
V. 検出された遺構と遺物			4
VI. まとめ			6
抄録	写真図版			

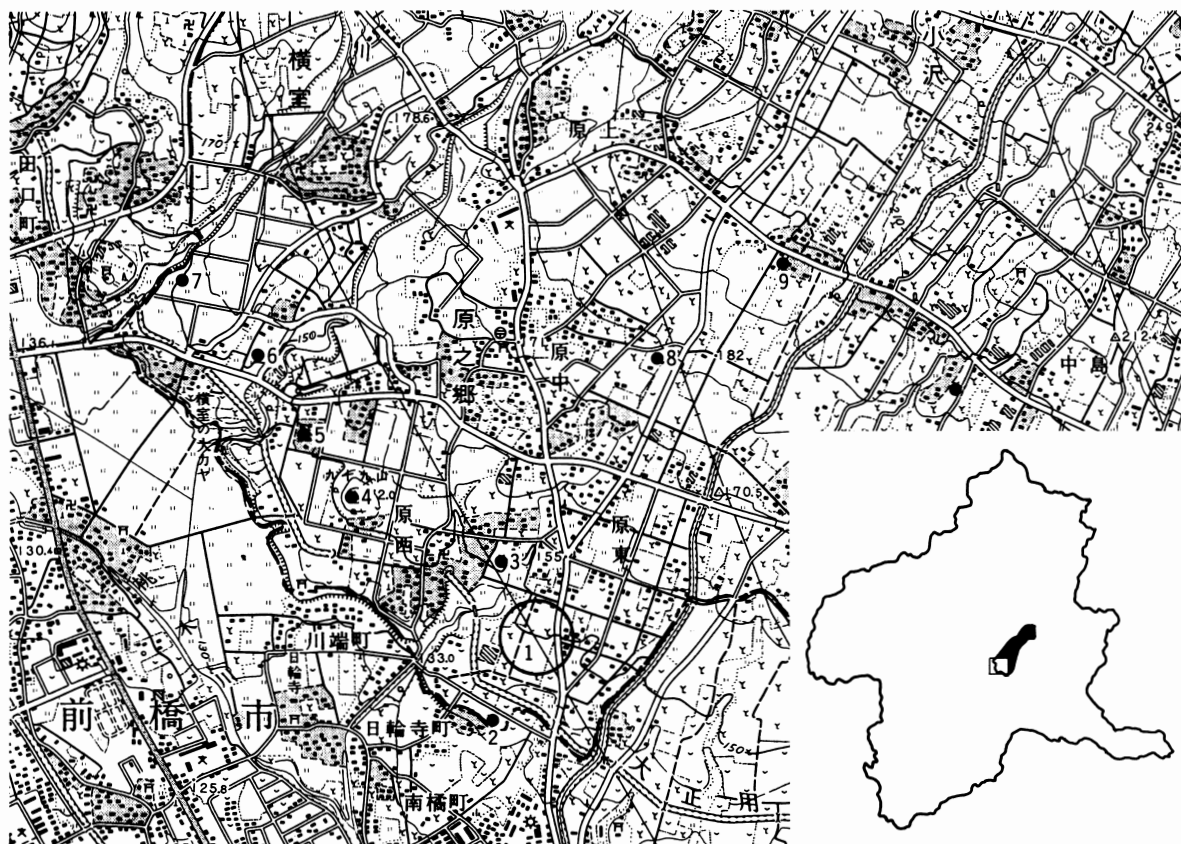
I. 調査に至る経緯と調査の経過

平成9年6月、開発協議審査委員会に小見保氏より共同住宅の建設を行いたい旨の協議書が提出された。開発予定地は平成7・8年度に発掘調査を行った旭久保遺跡の一部である可能性があったため、審査会において、とりあえず試掘調査の必要がある旨意見をを行った。同年7月、事業者より村教育委員会に調査依頼書が提出された。同月、試掘調査を行ったところ、住居及び溝跡と思われる遺構が検出された。この結果に基づき事業者と遺跡の保護について協議を行ったが、開発の意志が堅いため、遺構・遺物が検出された建物部分を中心に発掘調査を行い、記録保存を図ることで合意に至った。

発掘調査は8月18日に着手した。調査面積が少なく、遺構・遺物の量も少なかったため、同月28日には終了した。

II. 遺跡の位置と遺跡地の地形

旭久保遺跡は富士見村役場の南方約2.5km、津久田停車場・前橋線（通称石井県道）に面して西側に位置する。前橋市から富士見村に入っすぐ左側である。



第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡 (S = 1 / 25000)

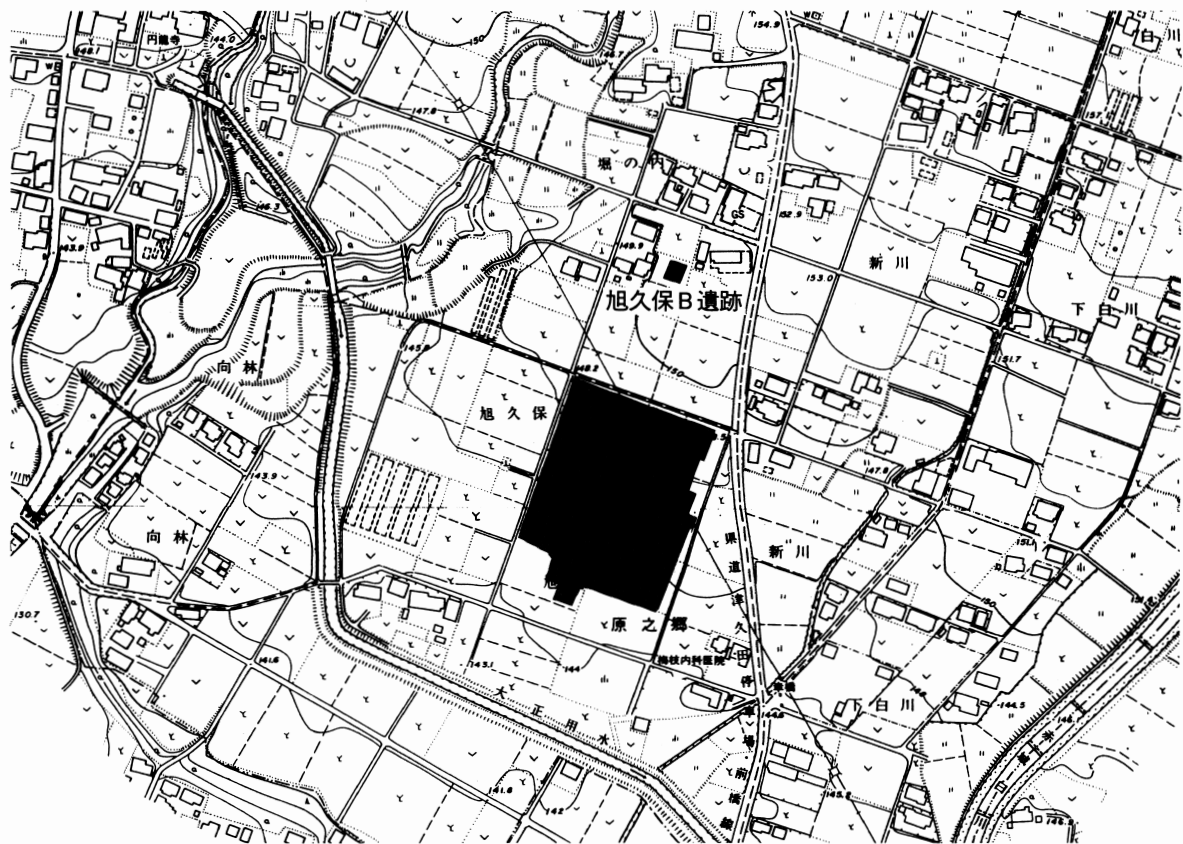
遺跡は赤城白川扇状地の西端部の台地上に位置する。現在の赤城白川は遺跡の東（～南）方を北東から南西方向へとゆるやかに蛇行しながら流下している。最も近いところで約200mの距離である。遺跡の乗る台地の東側は谷地であり、赤城白川との間にさらに台地を挟む。

台地の西側には大堰川という小河川が流下しているが、この付近の谷幅は広く深い。台地は調査地の南方約400mの旧利根川の崖端まで続いている。遺跡周辺の台地の幅は最大で200mを超える。

調査地は遺跡の北端に位置すると思われる。台地全体は北東から南西へと向かう緩斜面であるが、この付近では蛇行しながら流下する大堰川の谷に向かって東から西、あるいは南東から北西への緩斜面となっている。

III. 周辺の遺跡

旭久保遺跡（第1図1）は古墳時代～平安時代の集落を中心とする遺跡で、縄文時代中期中葉を主体とする多量の遺物も出土している。旭久保遺跡（第1図1）の南方約200mに旭久保II遺跡（同図2）があり、確認調査の結果、古墳時代前・中期の住居跡や縄文時代前期後半の遺物包含層を検出している。旭久保II遺跡の南端が旧利根川の崖端であり、この崖縁には多数の古墳があったと富士見村誌は記載するが、現在では全て平夷され、痕跡さえも留めていない。谷地を挟んで北西200mには、原之郷東原遺跡（同図3）がある。縄



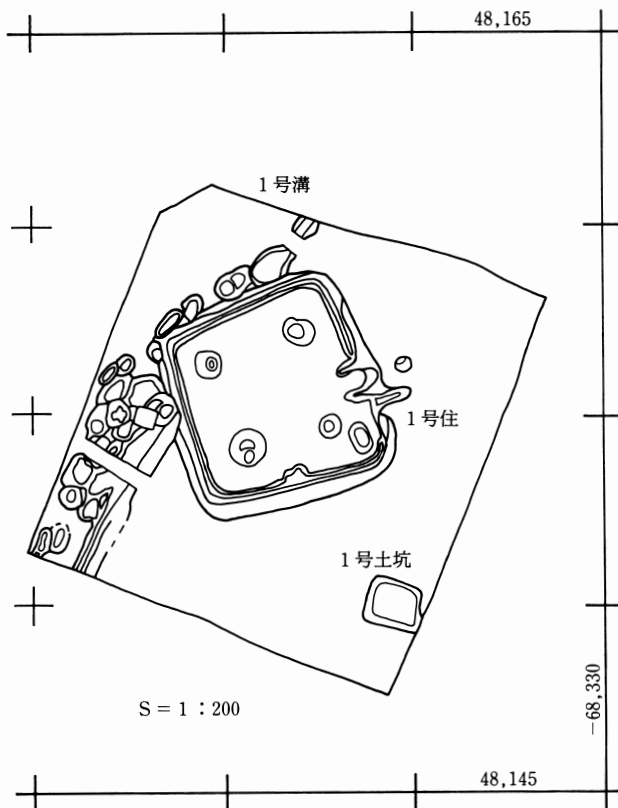
第2図 遺跡周辺の地形（S = 1 / 5000）

文時代前期中葉、奈良～平安時代の集落遺跡である。北西方には既調査地を含めていくつかの遺跡が点在する。本跡から約700mには、富士見村唯一の前方後円墳である九十九山古墳（同図4）がある。1.0kmには金山城跡（同図5）がある。さらに1.2kmに古墳時代後期～奈良・平安時代の集落を調査した岩之下遺跡（同図6）がある。1.6kmには古墳時代全般にわたる集落を中心とする田中田遺跡（同図7）がある。眼を転じて北東には、今年度調査を行った原之郷鰻沢遺跡（同図8）があり平安時代の集落を検出している。1.4kmには小沢の場遺跡（同図9）がある。古墳時代の溝跡や平安時代の住居を検出している。

IV. 土層堆積

本調査地は赤城白川扇状地に位置している。この扇状地上にも様々な遺跡が展開しているが、地点によって、離水年代が異なり、また、離水後に受けた自然の、あるいは耕作等の人為的な行為により、土層の堆積状況も様々である。

本調査地の表土（耕作土）は、砂質の暗褐色土である。表土の下にも表土よりもやや明るい砂質暗褐色土が堆積する。その下には軽石少なめで締まりのある黒褐色土、As-C軽石を多量に含み Hr-FA ブロックも含む黒褐色土が堆積する。さらに、C軽石を含む黒色土、C軽石をほとんど含まない黒色土が堆積する。その下はローム漸移層からソフトローム～ローム層となる。



第3図 旭久保B遺跡調査区全体図

V 検出された遺構と遺物

① 竪穴住居跡（1号住居跡）

北壁から西壁にかけて溝跡が重複する。湧水のため調査は困難を極め、柱穴等は掘り上がっていない。

東西約5.4m、南北約5.8mの規模を有するが、北辺と西辺が若干短いため、歪んだ隅丸形状を呈する。壁高は60～70cmを測る。主軸方位はN-20°-Wである。壁面は中段から上が大きく開く。床面は、壁寄りを除き全体的に良く踏み固められており、堅緻である。対角線上の4ヶ所に支柱穴が検出されている。掘り方の形状は円形もしくは楕円形を呈し、最大で径約1m、深さ40cmを測る。貯蔵穴は南東隅に壁面から若干離れて付設されている。長径80cm、短径55cm、深さ40cmを測り、楕円形状を呈する。幅15cm前後、深さ10cm前後の壁周溝がカマド周辺を除き巡っている。カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。ローム袖が残存し、煙道の天井部も残存していた。袖部の長さ約70cm、焚口の幅45cm、壁上端から煙道先端までの長さ約1mを測る。また、このカマドに接してすぐ南に煙道部だけが残存することから、作り替えを行ったものと思われる。この煙道の底面は、床面よりも約20cm上方に位置している。幅30cm前後、長さ約1mを測る。

遺物はカマド右袖の外側に集中し、さらに東壁～南壁寄りの各所に散在して多数のこも編み石が出土している。土器類は主に覆土中から出土しており、大半は小破片である。器種は土師器の坏・甕である。住居の時期は古墳時代後期、7世紀前半と思われる。

② 溝跡（1号溝跡）

調査区の西側に検出された。先年調査を行った旭久保遺跡の溝跡（道路跡）の延長線上に位置し、今回の調査区内で東方に走向を変える様相が看取できる。住居跡の検出に主眼をおいて深く掘削したため、特に北半部は、壁面すべてを削平しており、底面に掘削された土坑状の掘り込みが連続するだけである。南半部は東側壁面が残存しており、底面東縁に側溝状の掘り込みが認められる。西側は北半部と同様に土坑状の掘り込みが連続する。土坑状の掘り込みの形状は円形若しくは楕円形を主体とし、規模は一定していないが、長径で1m前後、短径で40cm前後を測る。底面からの深さは20cm前後でほぼ一定している。出土遺物の大半は縄文時代の土器破片であるが、数点陶器破片が出土している。溝の時期はこの陶器破片及び覆土の状況から中近世に属すると思われる。

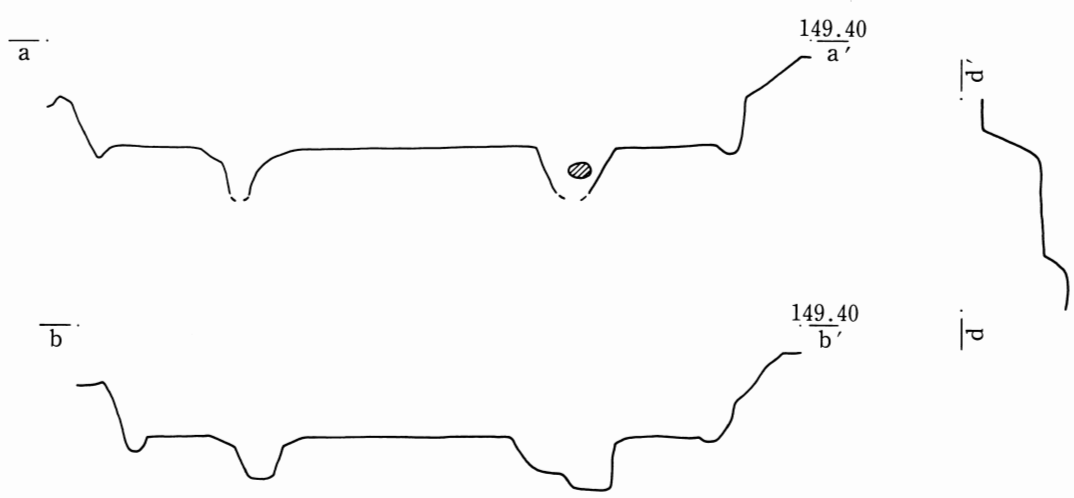
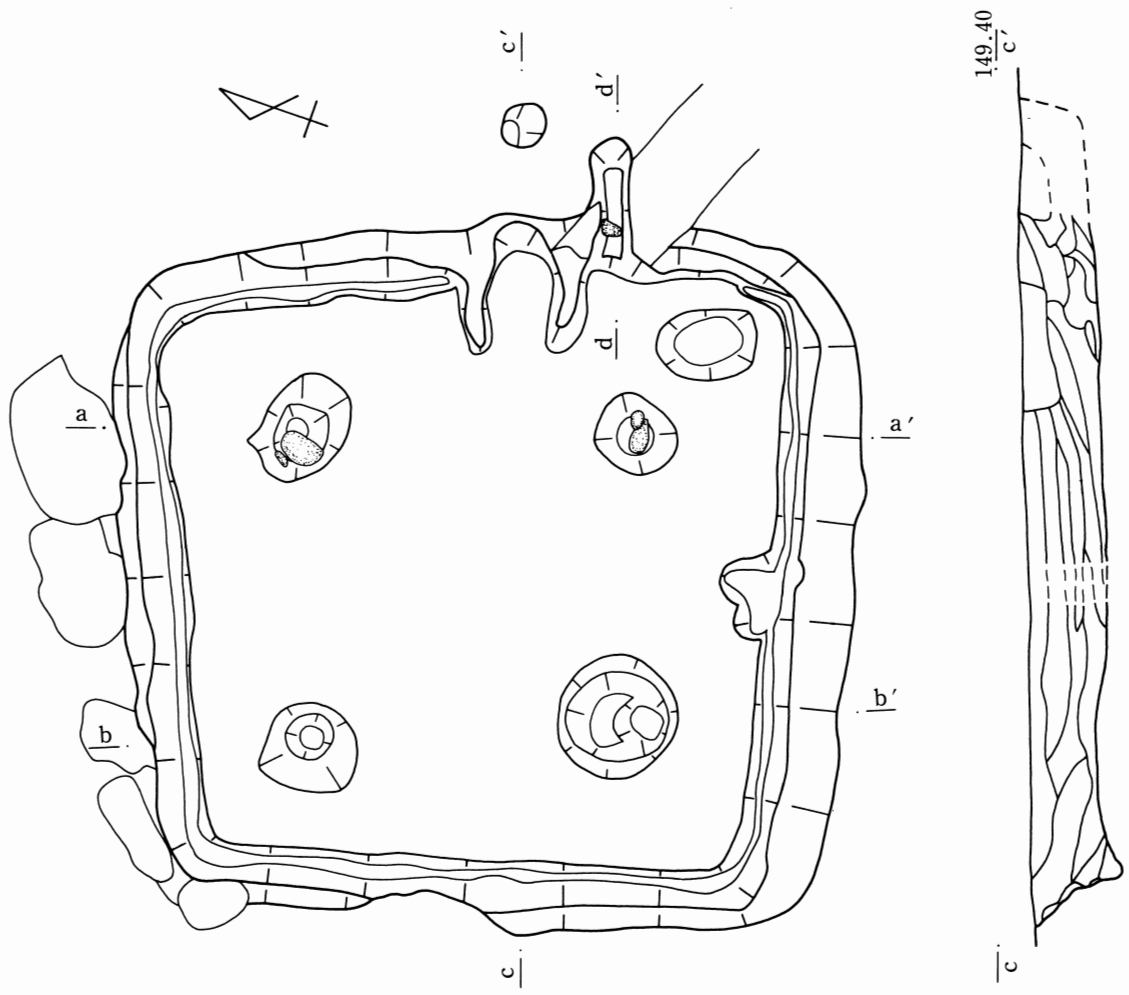
③ 土坑（1号土坑）

調査区南東部に位置する。東西1.5m、南北1.2m、深さ約15cmを測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。覆土は砂質暗褐色土に黒色土が混じる。遺物は出土しておらず、時期も不明である。

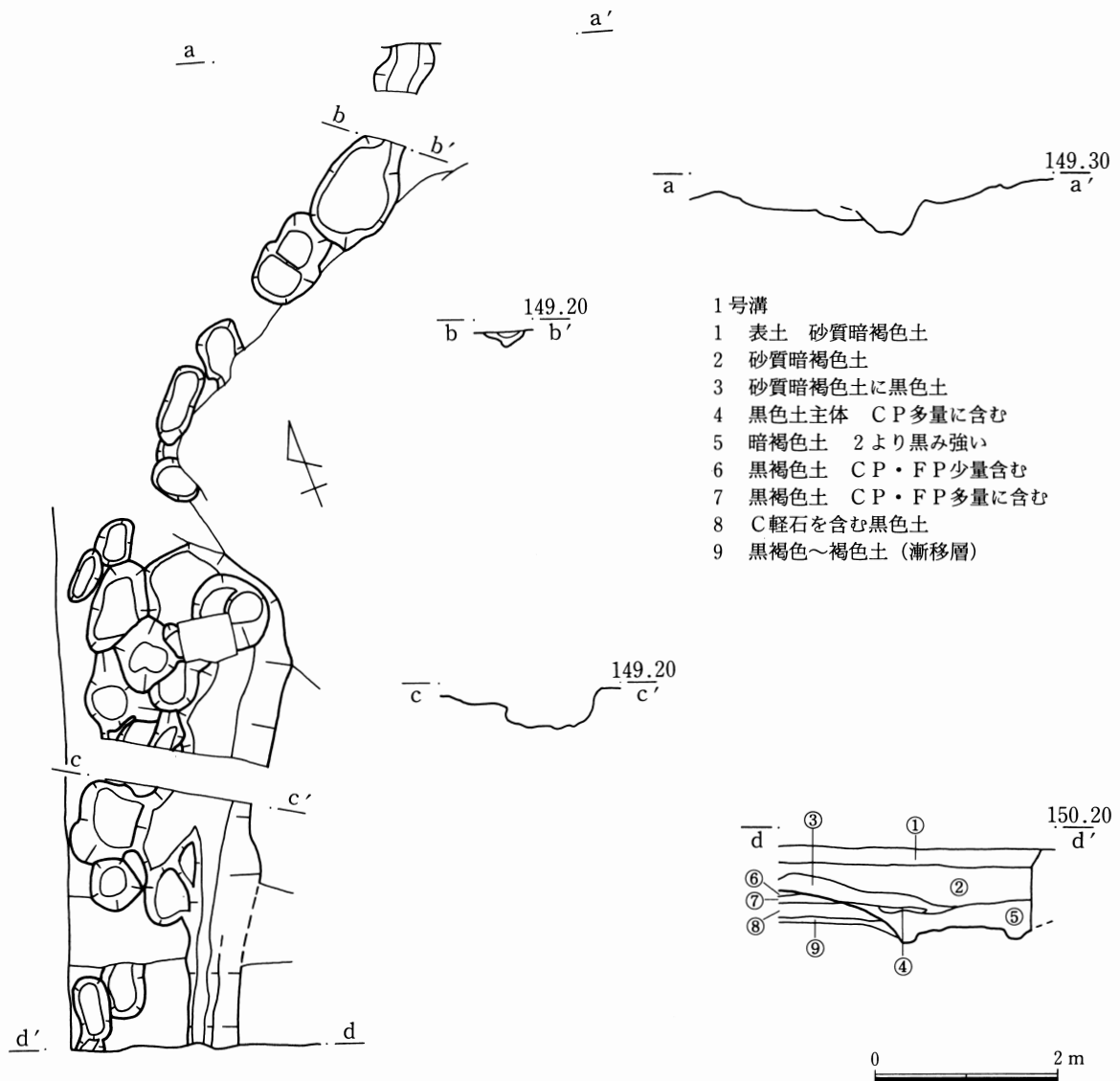
④ 遺構外出土遺物（縄文時代）

遺構は検出されていないが、住居や溝の覆土あるいは遺構外から中期を中心とする縄文土器の破片が出土している。

1～5は胎土に繊維が含まれる。前期中葉と思われる。6～8、28は前期後半に属すると思われるもので、縄文地文、浮線、集合沈線？がある。9以降は中期に属すると思われる土器破片で、勝坂、阿玉台、焼町、三原田、加曽利E式等多様である。37は深鉢底部を用いた土製円盤である。



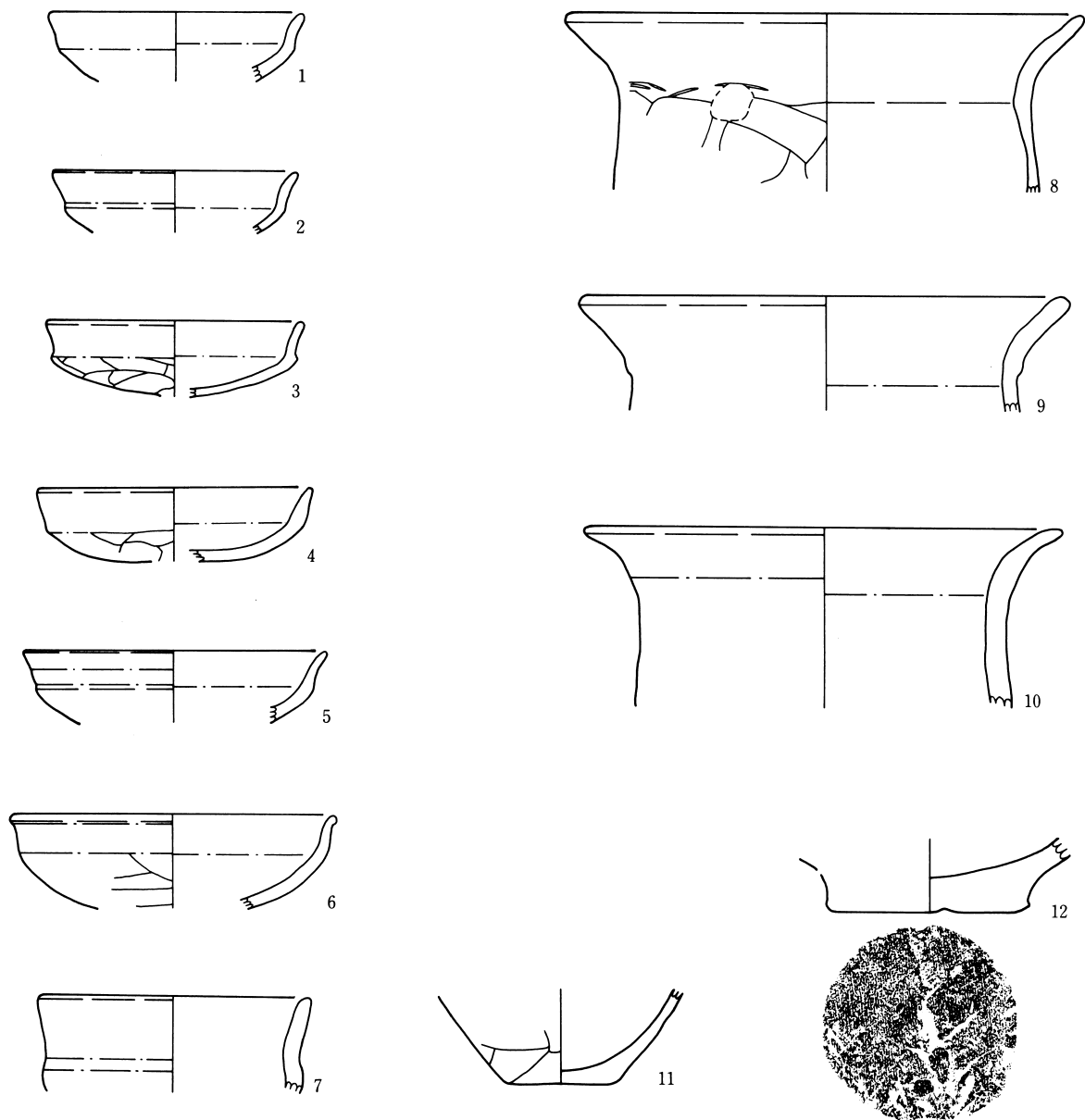
第4图 1号住居跡



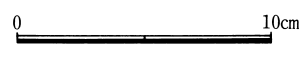
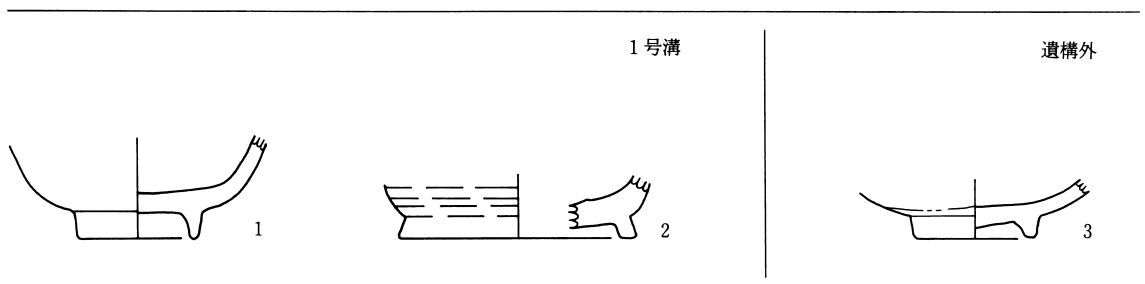
第5図 1号溝

V まとめ

旭久保B遺跡からは古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、中近世と思われる溝跡1条、時期不明の土坑1基が検出されただけであるが、先年調査を行った旭久保遺跡の古墳時代（～平安時代）の集落の北（西）限を捉えられたと思われ、また縄文時代の遺物包含層が今回の調査地点まで続いていることが確認できたことも大きな成果である。旭久保遺跡は古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡約100軒、掘立柱建物跡約50棟、井戸、中近世の溝跡、道路跡などが検出され、縄文時代中期中葉の多量の遺物が出土した富士見村でも有数の大規模な遺跡であるが、現在調査資料の整理作業途中であり、古墳～平安時代の集落の分布や時期的な変遷、縄文時代遺物包含層出土遺物の分析などは旭久保遺跡の本報告の中で行う予定である。



1号住



第6図 出土遺物

旭久保 B 遺跡出土土遺物観察表

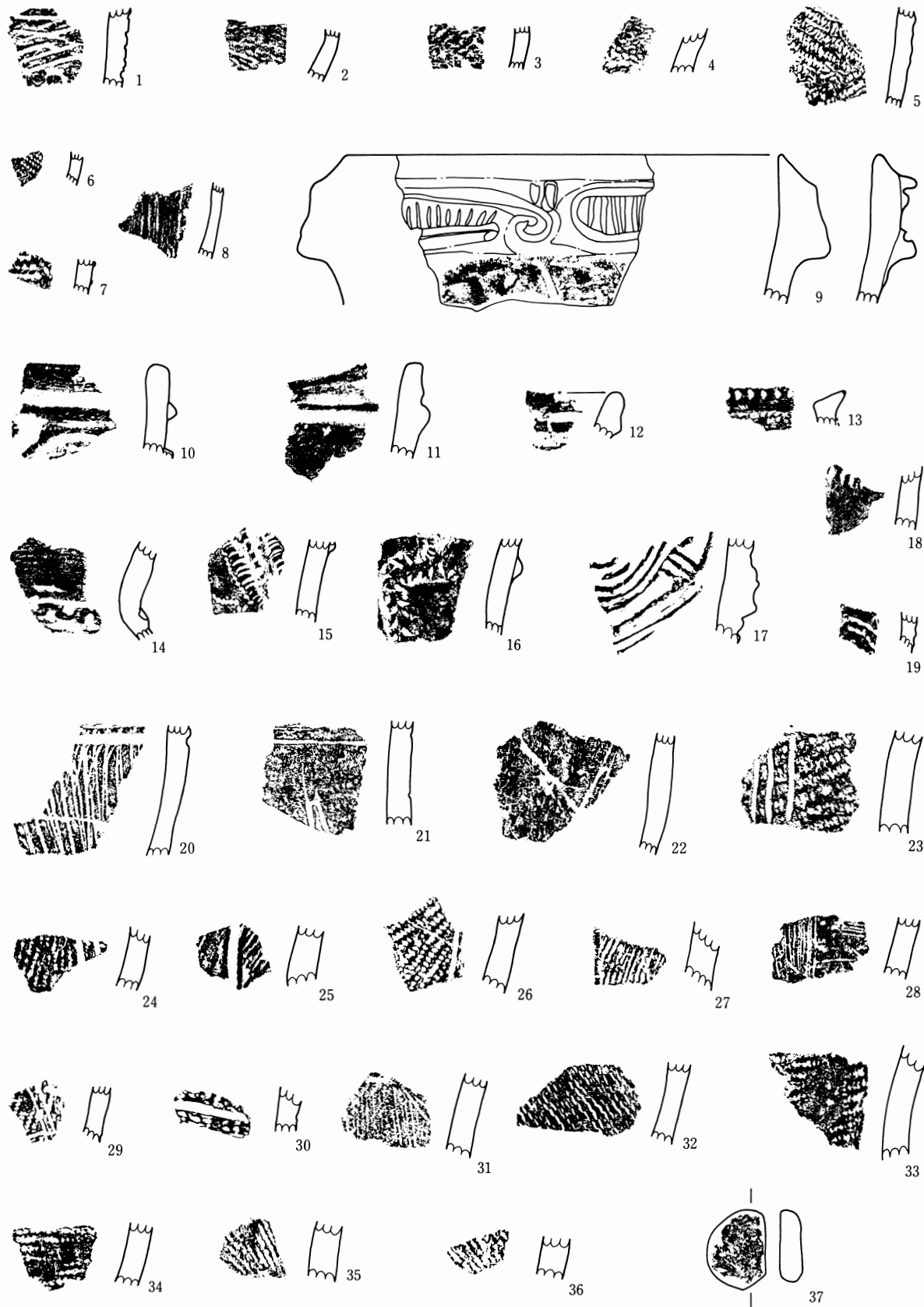
番号	器種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
----	----	--------------	--------	-------	------------	----

1号住居跡

1	坏土師器	フク土破片	口：(10.9) 底：(10.1)	砂粒に ぶい橙色	丸底。口縁部は外反する。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	
2	坏土師器	フク土 1/6	口：(10.5) 底：(9.4)	砂粒 橙色	口縁部は一旦立ち上がり、外傾する。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	二次焼成
3	坏土師器	カマド周辺 3/5	口：11.0 底：10.5	砂粒 橙色～灰褐色	口縁部は外反する。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	内面に煤付着
4	坏土師器	フク土 破片	口：(11.7) 底：(10.8)	粗砂粒 橙色	口縁部は浅い体部から、直線的に開く。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	
5	坏土師器	貯蔵穴脇 1/6	口：(13.0) 底：(11.8)	砂粒 橙色	口縁部は弱く外反し、中位に浅い沈線がある。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	
6	坏土師器	カマド周辺 破片	口：(14.0) 底：(13.1)	砂粒、小礫 明赤褐色	口縁部は外反気味で、先端が強く張り出す。 内面～口縁部外面ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ	
7	小型甕？ 土師器	フク土 1/4	口：11.7	砂粒 暗赤褐色	口縁部は幅が広く、わずかに外傾する。 口縁部内外面ヨコナデ。	
8	甕土師器	カマド周辺 1/4	口：22.0	砂粒 にぶい橙色～ ぶい赤褐色	口縁部は強く外傾する。 口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ナデ、外面ヘラケズリ。	
9	甕土師器	フク土 1/4	口：20.8	砂粒 にぶい橙色	口縁部は外傾する。 口縁部内外面ヨコナデ。	内面煤付着
10	甕土師器	フク土 破片	口：20.3	砂粒 にぶい橙色	口縁部は強く外反する。口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ナデ、外面ヘラケズリ。	
11	甕土師器	フク土 破片	底：4.6	砂粒 にぶい橙色	底部は小さな平底。 外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ユビナデ？	
12	甕土師器	フク土 底部完存	底：8.7	砂粒 にぶい橙～橙色	底部は突出する。 内外面ともナデ？	木葉痕

陶磁器

1	碗陶器	1号溝 3/5	台：4.8	緻密 赤褐色（胎土）	灰釉	刷毛目唐津
2	壺？ 陶器	1号溝 1/3	台：9.4	緻密 灰白色（胎土）	釉は錆釉で釉調は明褐色～暗褐色。	
3	碗陶器	遺構外 底部完存	台：4.9	緻密 黄白色（胎土）	釉は鉛釉で色調は明褐色。	瀬戸美濃



第7図 縄文土器

写真図版



1. 調査区全景 (北東から)



2. 1号住居跡全景 (西から)



3. 1号住居跡カマド (西から)



4. 同左こも石出土状態 (東から)



5. 1号溝 (北東から)



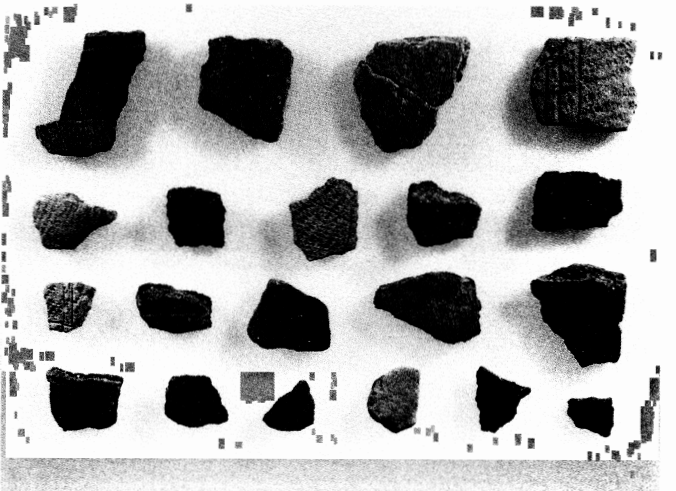
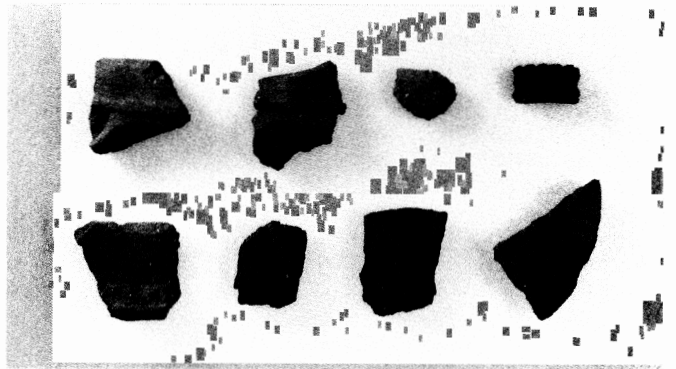
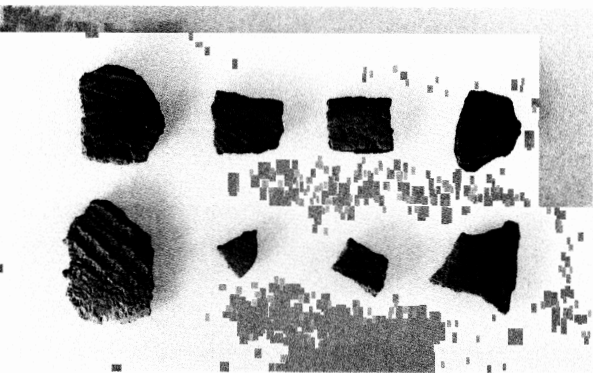
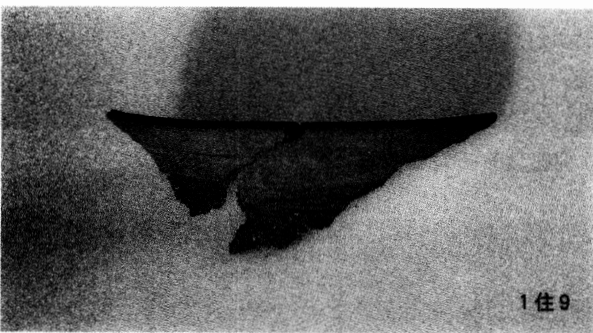
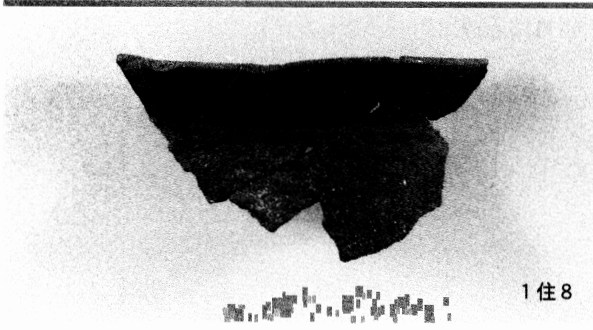
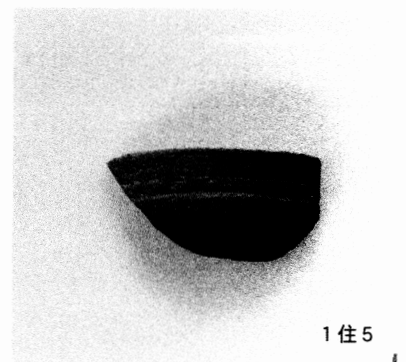
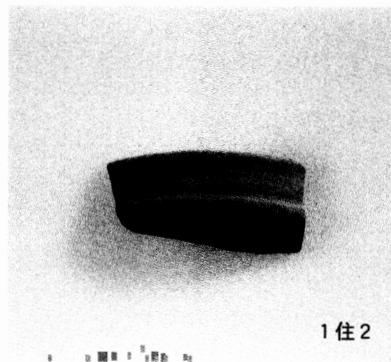
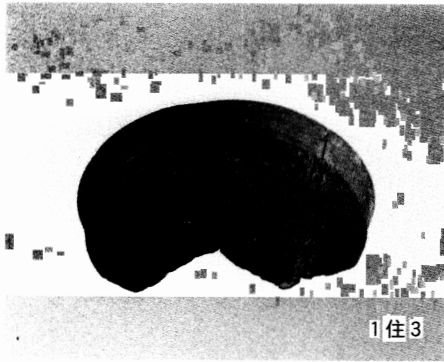
6. 同左 (南西から)



7. 1号土坑 (北東から)



8. 湧水の状況 (北東から)



発掘調査報告書抄録

フリガナ	アサヒクボ ビーイセキ
書名	旭久保B遺跡
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥政彦
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371-0114 群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1 Tel 027-288-6111
発行年月日	西暦1998年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
アサヒクボ 旭久保B遺跡	セタグンフジミムラ 勢多郡富士見村大 ハラノゴウホリノウチ 字原之郷字堀之内	10303		36°25'53"	139°04'15"	19970818 } 19970828	110m ²	共同住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
旭久保B遺跡	包含層 集落	縄文時代 古墳 中近世	住居跡 1軒 溝跡 1条	土器破片 土師器、こも石 陶器	縄文時代中期

旭久保B遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵
文化財発掘調査報告書

平成10年 3月18日印刷

平成10年 3月25日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話 (027) 288-6111

印刷／朝日印刷工業株式会社